



次 第

1. 開会

2. 主催者あいさつ

3. 講演

第1部 講師：鈴木マグロー氏

3年間で6億6000万円の経済効果を生み出した
「深浦マグロステーキ丼」の取組み

第2部 講師：鈴木メバルー氏

1年間で2万3000人がやってきた！
「中泊メバルの刺身と煮付け膳」の取組み

第3部 講師：ヒロ中田氏

食が地域を熱くする！
～新・ご当地グルメ開発のすすめ～



鈴木 マグロー 氏

深浦マグロ料理推進協議会 事務局長

深浦町生まれ 本名：鈴木治朗（すずきじろう）

平成5年深浦町入庁。

平成23年、当時関東以北では初となる自治体とリクルートじゃらんがコラボした観光パンフレット『深浦じゃらん』の企画・制作。

平成25年1月、深浦マグロ料理推進協議会設立、事務局長に就任。

同年11月から、町長命令で「鈴木マグロー」を名乗る。

モットーは「感謝を忘れず、失敗を恐れず、前のめりでヤッテマります」。



鈴木 メバルー 氏

中泊メバル料理推進協議会

中泊町(旧小泊村)生まれ 本名：鈴木統生（すずきのりお）

平成6年小泊村役場入庁。現在水産観光課、水産係4年目。

平成27年6月、中泊メバル料理推進協議会事務局長に就任。

年間目標10,000食をデビューから111日目で達成し、年間目標を20,000食に上方修正したが、341日目で達成し、1年間で23,000食を突破する大ヒット商品になった。

ヒロ中田氏

本名 中田博人（なかつひろと） 55歳

(株)じゃらんリクルートライフスタイル

じゃらんリサーチセンター エグゼクティブ プロデューサー

自称「空飛ぶご当地グルメプロデューサー」

1960年 広島県呉市生まれ

1984年 慶応義塾大学法学部卒業

1984年4月 (株)リクルート入社、10年間企業の人材採用ビジネスに携わった後、

1994年7月～1996年3月 海外旅行情報誌『エイビーロード関西版』副編集長

1996年4月～1999年9月 『北海道じゃらん』副編集長

1999年10月～2009年3月 『じゃらん北海道』編集長

2009年4月～ じゃらんリサーチセンター エグゼクティブプロデューサー 現在に至る



◎ 実売部数3万5000部(月間)だった『北海道じゃらん』を12万5000部(月間)まで伸ばし、日本一読まれている雑誌(ビデオリサーチ社「読読率ランキング日本一」)に育て上げ、カリスマ編集長として活躍。

◎ 最近では、地場産の食材に徹底的にこだわった企画開発型の「新・OMOTENASHI ご当地グルメ(略称：新・ご当地グルメ)」のプロデュースを70以上手がけ、空飛ぶご当地プロデューサーとして全国を回っている。主な「新・ご当地グルメ」に、「美瑛カレーうどん」「富良野オムカレー」「オホーツク北見塩やきそば」「別海ジャンボホタテバーガー」「十勝芽室コーン炒飯」「十勝清水牛玉ステーキ丼」「大樹チーズサーモン丼」「日南一本釣りかつお炙り重」「那須の内弁当」「佐渡天然ブリカツ丼」「館山炙り海鮮丼」「深浦マグロステーキ丼」「平内ホタテ活御膳」「加賀カニごはん」「中泊メバルの刺身と煮付け膳」「田子ガーリックステーキごはん」などがある。

◎ セミナー&シンポジウムのパネラー、コーディネーター、大学での講義のほか講演多数。『北海道じゃらん』に掲載されている連載コラム「旅の玉手箱」は本年9月で丸20年を迎える。

◎ 北海道の人気旅番組『旅コミ北海道』(テレビ北海道：毎週土曜日18時30分～19時)の企画プロデューサーも務める(1997年6月7日～)

(公職ほか)

東京農大学生物産業学非常勤講師、新・地域再生マネージャー(地域総合整備財団)、食による観光まちづくり推進協議会(S-1パートナーズ)プロデューサー、「新・ご当地グルメグランプリ北海道」審査委員長 など